

響

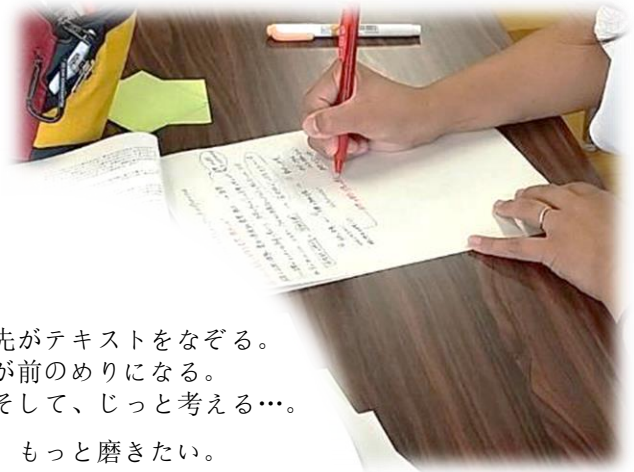


ひびき

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
TEL.0267-31-0251
FAX.0267-31-0140



令和3年9月30日
No.4



視線が動く。指先がテキストをなぞる。
ペンを走る。体が前のめりになる。
耳を澄ませる。そして、じっと考える…。

初任研夏期研修

もっと知りたい、もっと磨きたい。

しなやかで、機敏で、持久力があって、
余白があって、熱い初心。



たとえ、今は自信がなかったとしても、
それはいつかまた帰りたいくなる自分だ
たりするのです。



響 第4号「伸びる」 -もくじ-

授業から学ぶ 自ら課題を解決する力を育む授業展開 理科 2

授業から学ぶ 話したい！聞きたい！ 外国語活動 3

考える部屋 話し合い活動が進むために 4

研修の窓 先輩から学ぶ 初心に戻る 教師力向上研修Ⅱ・Ⅳ 5

お知らせ 高校進学説明・相談会 6

生涯学習課より 7

ひたむきに学ぶ初任者の姿は、よりよく伸びようとする人としての姿を物語っています。

社会が変わり、学び方が変わり、授業が変わり、働き方も変わろうとしています。私たち教師は、常に変化を読み、変化を受け入れ、そして、変化の先にある未来に向かう子どもたちと共に伸びようとしてきました。この先も、それは変わりません。

「響ひびき」これまでのバックナンバーはこちらからご覧になれます。
本誌掲載の実践などのより詳しい内容については、事務所でお問い合わせください。



授業から学ぶ
中3・理科
「化学変化と
電池」

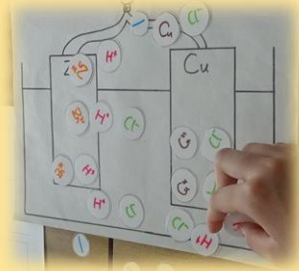


自ら課題を解決する力を育む授業展開

A中学校では、「学びの自立」をキーワードに、生徒が自らの力で課題を解決していく授業づくりに取り組んでいます。



この単元では、電解質の水溶液と2種類の金属を用いた実験から、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを学びます。様々な実験を行って、モデルを使って考えたり、説明したりする学習を繰り返すことで、「目に見えない電子の動きを科学的に説明する力」をつけていきます。



ペアで モデルを用いて追究



前時に行った実験結果から、2種類の金属を導線でつなぎ、電解質の水溶液に入れたときに電流が流れた理由をペアで考えました。

元素記号のモデルを動かし、「イオン」「電子」「水素」など既習の言葉を使って考えを伝え合いました。

既習事項を基に、視覚化したモデルを使って考えを伝えたり、友だちの説明を見たり聞いたりすることを通して、自分の考えを整理することができ、自分の考えが確かなものになっていきます。



ペアとペアで 違う考えと出会う



Bさんのペアは「亜鉛板で生まれた電子は水溶液中を移動する」と考えました。教師は、「電子が導線の中を移動する」と考えたCさんのペアと意見交換するように促しました。

「豆電球が点灯するのは、導線の中を電子が移動しているという証拠。もし、水溶液中を移動しているなら点灯しないはず。」とCさんの説明を聞いたBさんは、「なるほど」と納得し、モデルを操作して、Cさんの考えを説明しようとしていました。



教師がそれぞれのペアが考えたことを認め、違う考えのペアと出合わせたことで、生徒は納得したり、考えをより深めようと伝えたりする姿につながっています。「学びの自立」に向け、生徒の自ら解決する力を信じて、課題解決を任せたことが最大の支援です。

授業展開を工夫することで、生徒は自らの力で課題を解決していくことができます。教師が「教える」ではなく、生徒が「学ぶ」授業を構想するために、生徒の学びの深まりを思い浮かべながら授業をつくっていくことが大切です。



授業から学ぶ

小4・外国語活動
「好きなものを
伝えよう」



話したい！聞きたい！ ～会話の内容を重視したやり取り～

A小学校の外国語活動では、やり取りを通してお互いをよく知り合うことを大切にされた授業改善に取り組んでいます。そのために、会話の内容を重視して意欲を引き出す工夫がされていました。



先生 : Do you like fish?
ALT : Yes, I do.
先生 : I don't like fish!
子ども : えー！先生魚嫌いだったの！
先生 : Do you like fish?
子ども : No!
先生 : Me too!

先生は、好きな食べ物以外に、魚が嫌いなことも打ち明けました。Bさんは、「先生でも魚嫌いなんだ！」という表情で見つめます。先生の意外な一面に気付いた子どもたちは、友達にも聞いてみたいという気持ちが湧いてきました。

先生は、「Do you like fish?」「Yes.」「No.」だけで終わるやり取りではなく、「魚が嫌いなんだね。先生も一緒だよ。」と、会話の内容に合わせて自分の気持ちを加えることで、子どもの話したい、聞きたい意欲を引き出します。



Bさん : I like potatos?
Cさん : Yes, I do. (goodサインを出しながら)
Do you like apples?
Bさん : Yes, I do. (goodサインを出しながら)
Do you like ramen?
Cさん : No, I don't.



Bさんは好きなことを聞くことに夢中になり、8人とやり取りしました。そして、繰り返す中で、友達を真似てgoodサインで気持ちを加え、正確に尋ねることができるようになりました。

先生が、「やり取りして気付いたことはあるかな。」と問いかけると、Bさんは笑顔で発表しました。

私のクラスでは、ハンバーグを好きな人が一番多かったことが分かりました。次は、トマトはどのくらいの方が好きなのか知りたいです。

他の子どもたちもうなずいて聞き、後半はさらにたくさんの友達と会話する姿が見られました。



楽しくやり取りを重ねることで、友達のことがよく分かり満足そうです。充実したやり取りは、正確で、豊かな表現に親しんでいくことにつながります。

話したい、聞きたいという意欲を引き出すには、教師が驚きなど気持ちを加えてやり取りをするように心掛けることが大切です。子どもたちと会話を楽しみながら、たくさんコミュニケーションを図り、外国語に慣れ親しみましょう。



考える 部屋

話し合い活動が進むために ～中2国語の実践から考える～

「話し合いが活発にならない」「途中で対話が止まってしまう」「学習課題の解決に向かう話し合いがつかれない」など、話し合い活動の指導に難しさを感じることはないでしょうか。

💡話し合いを促すM先生

国語の説明文「モアイは語る」の内容（イースター島では、モアイを運搬する「ころ」などにするためにヤシの木が乱伐された結果、森林資源が枯渇し文明が滅んでしまったこと）と、生徒会で取り組んでいるSDGsとの内容の関連性について考え、イースター島の例を自分たちの生活にどのように生かしていけるか話し合い、端的にまとめる。

「モアイは語る」から学んだことと、SDGsとの関連性を考えて自分たちの生活に生かしていこう。この問題に正解はない。そういう、正解のない課題の時は、特に根拠を示して、相手が納得できるように話し合っていこう。



💡話し合い活動の実際

A生：「SDGsの11「住み続けられるまちづくりを」が「モアイは語る」と関連があると思う。現代でも、都市化が進むと住宅不足になり、人が住めなくなるから。」

B生：「SDGsの12「つくる責任、つかう責任」も関係あると言えそうだよ。」

C生：「11と12って結び付くんじゃない？」

B生：「なんで？」

C生：「現代も、資源を無駄遣いしていくと住む場所である地球自体が危なくなるじゃん」

A生：「資源がなくなって環境破壊が起こる。そして、動物はいなくなる」

D生：「おー、たしかに！・・・あ、11、12、16も結び付くかも。理由は・・・」

3人はそれぞれの発見や考えを関連させ、そこから現代の生活につながるということについて、少しずつ焦点を絞っていきました。時々、自分の考えや出された意見が正しいのかどうか端末で調べて確認してきます。そして、ホワイトボードには「共通点：資源を大切・平和な社会」などとまとめられていきました。



💡考えてみましょう！

→なぜ、このように話し合い活動が続き、議論が進んでいったのでしょうか？

- ☑ 「生活に生かすために」という目的や、「根拠をもとに」という方法を示した。
- ☑ 「現代も～」や「結び付く」などの発言や、「どうして？」という質問や、端末で根拠を探る姿など、生徒たちからどのような発言や姿があらわれてくるとよいのかを想定した上で、話し合いを促していた。
- ☑ 話し合う生徒たちの対話に耳を傾け、「その話の根拠は？」など問い返したり、「まとまってきているね」など、話し合いの進み具合を認めたりして関わっていた。

私たち教師は、話し合いを促す前に、生徒にどんなことを示し、何を確認し、どのような姿を期待し想定するのかを十分に吟味することが必要ですね。そして、生徒たちの対話に耳を傾け、共に考えるひとりとなって問い返していくことも、話し合いを活発にする上で大切な関わりですね。





先輩から学ぶ 初心に戻る ～教師力向上研修Ⅱ・Ⅳ～

初任者と5年経験者が共に学び合う、貴重な研修の機会でした。5年経験者はICTを活用した授業実践について、また初任者は1学期の授業実践について発表し、それぞれ意見交換しました。



〈5年経験者の発表〉

小学校の先生は、低学年の子どもたちの実態に合わせた、カメラ、ビデオ、描画機能等を活かした授業について発表しました。中学校の先生は、付箋アプリを用いて考えを出し合ったり、分類したりした授業や、生徒も教師も見返すことができる学習カードの有用性などを発表しました。

【初任者の感想】

先輩の「生活科などで、写真を毎日撮って記録に残したり、その写真を共有したりした」というお話を聞いて、おおいに活用できそうと思った。

ICTという手段が目的にならないように、子どもたちが学びの道具として活用することに取り組みたい。



先輩方は、タブレットをただ使うのではなく、それぞれのツールの強みを生かし使いこなしている、という点が勉強になった。教科や活動の特性をうまくタブレットとからめて、子どもの学びのよりよい「手立て」にしていきたい。



〈初任者の発表〉

単元の学習問題や1時間ごと追究の足跡がわかる記入欄、最後のまとめの欄を1枚におさめた単元を見通すことができる学習カードや道徳の手作りのペープサートや、子どもたちの発言内容を丁寧に書いた板書の写真等を提示しながら発表していました。

【5年経験者の感想】

初任者の先生の発表を聞いて、課題設定が明確でわかりやすい授業の展開をしていると思った。少し慣れがはじめていた自分にとって、子どもにとって「わかりやすい」ということについて考えが欠けていたと思った。明日からの授業に生かしていきたい。



普段、校種の異なる先生方のお話を聞く機会があまりないので、小学校や特別支援学校の先生方の取組のよさや苦勞を改めて感じる事ができた。また、先生方の様子から、自分の1年目の頃を思い出し、気持ちを新たにがんばっていこうとパワーをもらえた。

初任者と5年経験者が一緒に学び合う、この研修ならではの学びがありました。学校の中でも、学年会、教科会、職員会、職員室のお隣の席の先生など、世代を超え、お互いのよさから学び合う機会を大切にしたいですね！





高校進学説明・相談会



東信教育事務所では、いじめ・不登校地域支援事業の一環として、進路についての悩みや不安を抱えている不登校傾向にある生徒及び保護者を対象に、進路に関する相談会を開催し、進路選択の不安軽減に向けた支援を行っております。

今回は、高等学校の教頭先生や進路担当の先生がご相談に応じます。

上田創造館

11月1日(月)

17:30~20:00

佐久市民創錬センター

11月4日(木)

17:30~20:00

<実施内容>

1. 進路選択・高校進学に向けての個別相談
2. 学校概要や高校生活に関する高校ごとの個別説明・相談
3. 学力検査など進路に関する高校ごとの個別説明・相談

■ 事前申し込みの必要はありませんが、各学校の相談ブースに並ぶこともありますので、時間に余裕をもってご来場下さい。

■ 不登校傾向の中学2・3年生及び卒業生、保護者の皆さんも参加できます。

(感染症感染拡大防止のため、保護者の方の参加は1名のみでお願いします。)

○参加予定校一覧(両会場)

- ・長野西高等学校(公立:全日制・通信制)
- ・上田千曲高等学校(公立:全日制・定時制)
- ・上田高等学校(公立:全日制・定時制)
- ・上田染谷丘高等学校(公立:全日制)
- ・上田東高等学校(公立:全日制)
- ・東御清翔高等学校(公立:多部制単位制)
- ・蓼科高等学校(公立:全日制)
- ・長野西高校 望月サテライト校(公立:通信制)
- ・小諸高等学校(公立:全日制)
- ・小諸商業高等学校(公立:全日制・定時制)
- ・軽井沢高等学校(公立:全日制)
- ・佐久平総合技術高等学校(公立:全日制)
- ・野沢南高等学校(公立:全日制・定時制)
- ・長野俊英高等学校(私立:全日制)
- ・上田西高等学校(私立:全日制)
- ・佐久長聖高等学校(私立:全日制)
- ・松本国際高等学校(私立:全日制・通信制)
- ・コードアカデミー高等学校(私立:通信制)
- ・さくら国際高等学校(私立:通信制)
- ・寺子屋高等学院(私立:通信制)
- ・つくば開成学園高等学校(私立:通信制)
- ・ID学園高等学校(私立:通信制)
- ・第一学院高等学校(私立:通信制)
- ・青山高等学校(私立:全日制、全寮制)

○不登校全般に関する相談

- ・東信子ども若者サポートネット

○上田会場のみ

- ・坂城高等学校(公立:全日制)
- ・丸子修学館高等学校(公立:全日制)

○不登校全般に関する相談

- ・上小圏域障害者総合支援センター

○佐久会場のみ

- ・岩村田高等学校(公立:全日制)
- ・野沢北高等学校(公立:全日制)
- ・小海高等学校(公立:全日制)
- ・地球環境高等学校(私立:通信制)
- ・KTCおおぞら高等学院(私立:通信制)
- ・黄柳野高等学校(私立:全日制、全寮制)

○不登校全般に関する相談

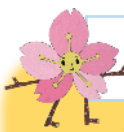
- ・ウィズハートさく

※新型コロナウイルス感染症拡大等の状況によっては中止・変更もあることをご理解願います。

【問い合わせ先】

☎0267-31-0251
東信教育事務所学校教育課
(担当) 原 多恵子





生涯学習課より

コミュニティ・スクール学校訪問の様子から ～児童が参加した運営委員会～

ある学校の運営委員会では、4年生が、昨年の6年生から引き継いだ、蛍を増やす活動の様子を運営委員の前で発表しました。

活動を6年生から引き継いだ時に、6年生は地域の人からいろいろなことを教わっていたと知りました。自分たちも地域の人から話を聞いてみるために、これまでの活動や困っていることを運営委員に発表しようと決めたのです。

発表では、「たくさんの蛍が飛ぶ姿を見たい」などの願いや「浮草が増えてしまった」「水路をきれいにしたい」といった課題などを、表にまとめたものや写真を使いながら伝えました。

発表を聞いた運営委員からは、「30年前につくった水路が今も残っていて感激した」「蛍は何時くらいに見られるの?」「八幡さまやうぐいす沢にも出るよ」と様々な話がつながって次から次へと出てきました。

すると児童からは「へー！今度そっちも行ってみよう!」と、学校の水路だけでなく、地域にまで活動が広がりそうな反応がありました。2学期には地域で蛍が見られる場所へ行ってみたいり、地域の方に蛍が見られたか調査をしてみたりすることを計画しているそうです。

様々な年代や立場の人が集まり、関わり合うことで、次の活動へつながっていく。コミュニティ・スクールの魅力を感じることができました。



全てオンラインで受講できます



子どもが育つ地域共育フォーラム 10/20(水)13:20～

社会教育

☆令和元年の台風19号で被災したご自身の経験をもとに、地域で子どもを育てるための視点やポイントについてお話しいたします。

講演 山口 利幸 さん(元長野県教育長)【地域社会が子どもを育てる】

東信地区社会人権教育研修会 10/28(木)13:30～

社会人権教育

☆人権教育の視点を新たにしていくために!

講演①寺沢秀文さん(満蒙開拓平和記念館長)【満蒙開拓から人権を考える】

②直井 恵さん(NPO法人アイダオ) 【映画館を学びの場に】

東信地区スポーツ指導者連携会議 10/29(金)13:00～

スポーツ振興

☆学校で行われている障がいのある子どもに対する支援に注目!

実践発表 竹田 靖先生(御代田中)【障害のある子どもへの支援の工夫】

※詳しくは、後日配布される開催要項をご覧ください。